約條

約條

亜墨利加合衆國と帝國日本兩國
其人民誠實不朽の親睦を結ひ
兩國人民の交親を旨とし向後可
守ヶ條相立ひ為合衆國より全權
マテユカルブレトヘルリ人名を日本ふ差越し

日本君主より全權林大學頭
井戸對馬守伊澤美作守鵜殿
民部少輔を差遣し敕諭を信し
て雙方左に通取極い

第一ヶ条

一日本と合衆國とい其人民永世不

朽ハ和親を取結ひ場所人柄ハ
差別無き事

第二ヶ条

一伊豆下田松前地箱館ハ去港を
日本政府ヨリ於て亜墨利加船薪
水食料石炭欠乏の品を日本

人ニ調い丈ケ給い為免渡来ス儀
差免ーい尤下因港ヲ約條書
面調印ス上即時相開キ箱
館ヲ来年三月より開ク事
一給ヲ度キ品物直段書ス渡ス
日本役人ヨリ右渡ス右代料ヲ

金銀錢を以て可申辯い事

第三十条

一合衆國の船日本海濱漂着之時扶助致し其漂民を長崎又は箱館江護送致し本國の者受取り不扶の思召を以招こう致い尤漂民諸雜費は本國より

国招く事有ハ及償ふ事

第四十条

一漂着或ハ渡来の人民取扱ひ

他国国招緩優ハ有ル閉籠後

殺害変心保西直ち法度ニハ伏

従いまつる事

第五ヶ条

一 合衆國ハ漂民其他の者ども當分
下田ニ相館置留中長崎ニ於て唐
和蘭人ニ対し閉ニ籠免窮屈ハ不
扱ゟ下田港内の小島ニ周り九
七里ハ内ハ徒手ニ徘徊ニ番一箱

館滞し候ハ追て取極ゟ事

第六ヶ条

一必用ハ不拘其外可お叶事ヲ

雙方談判し上ゟ極ル事

第七ヶ条

一合衆國ハ船右ゟ滞ル波ハ

時金銀錢幷正物を以て入用ゝ
品お調ひを云ふ免しは尤日本政府
の規定ふ[illegible]且合衆國れ
船より云出ふ品物を日本人ゝ好
て云迄ひは[illegible]更ふ[illegible]事

第八ヶ条

一薪水食料石炭等欠乏之れ有を
求る時ハ其地の役人ハ之れを扱
ひ私ハ之れを買ふ事

第九ヶ条

一日本政府外国人ハ當節要害利
加人ハ無免ヶ屋敷無免一ハ商

亜墨利加人江も同様差免ニ付右、
付談判相済之致し事

第十七条

一合衆国之船若難風ニ逢さる時
下田若館港之外猥ニ渡来不
致し事

第十一ヶ条

一両國政府に於て無拠後ろくしん模様より合衆國官吏ともの下因に居置い後も一のうくし尤約之調印より十八ヶ月後に居しうくし及其儀い事

第十二ヶ条

一 今般此約條お定め上は友國の者
堅お守ーヤ尤合衆國主に於て長公
會大臣と評議一定し後書を日本
大君に致ー件事今より後十八ヶ月
を過君上許容し約條を替ー事

右之條日本亜墨利加両國ゟ
全權調印せしむる者也

嘉永七年三月三日

林大學頭
井戸對馬守

伊澤美作守義

鵜殿民部少輔鈍